

北海道済生会

「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×

子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」

報告書

2026年3月



株式会社

北海道二十一世紀総合研究所

目次

I	事業の概要	1
1	事業目的	1
2	事業の内容	1
II	商業施設における子どもの居場所づくりに向けた実証研究等支援	2
1	過年度事業における取組の進化に向けた実証支援	2
1-1	モルック	2
1-2	デジタル系ものづくり	10
2	新たな取組の可能性検討に係る実証支援	26
2-1	ボッチャ	26
2-2	地域団体との連携による新たな取組の創出	29
III	商業施設における子育て期の就労等サポート機能強化に向けた実証支援	30
1	託児付きワーキングスペースの試行	30
1-1	短時間就労に対するニーズの把握	30
1-2	実証	33
2	企業や自治体等との連携体制構築に向けた支援	39
IV	若者のアイデアを企業等との共創により具現化する仕組みの実証・検証支援	44
1	ケーススタディ	44
2	今後の方向性	46
V	事業成果の周知支援	47
1	ウェルネス会議の開催支援	47
2	成果報告	47

I 事業の概要

1 事業目的

本事業は、北海道済生会を中心とする地域内外の産学官ステークホルダーによる「共創」により、地域住民にとって身近で利便性の高い地域の商業施設「ウイングベイ小樽」内に設置した「済生会ビレッジ」を拠点とし、“制度の隙間”にいるすべての「子ども」の居場所づくりや、子育て期の母親の就労等サポート機能の強化に向けた実証研究を支援し、今後の取組方向性をとりまとめるものである。

2 事業の内容

本事業は、「商業施設における子どもの居場所づくりに向けた実証研究等支援」「商業施設における子育て期の就労等サポート機能強化に向けた実証支援」「若者のアイデアを企業等との共創により具現化する仕組みの実証・検証支援」「事業成果の周知支援」の大きく4つの支援を実施し、今後の取組方向性を検討する。

事業全体の流れは、下記に示す通りである。

商業施設における子どもの居場所づくりに向けた実証研究等支援

- 1) 過年度事業における取組の進化に向けた実証支援
- 2) 新たな取組の可能性検討に係る実証支援

商業施設における子育て期の就労等サポート機能強化に向けた実証支援

- 1) 託児付きワーキングスペースの試行
- 2) 企業や自治体等との連携体制構築に向けた支援

若者のアイデアを企業等との共創により具現化する仕組みの実証・検証支援

ピッチイベントの企画・運営支援、効果的なイベント運営方法、優秀アイデアに対する企業等の支援方法、一連プロセスにおける運営体制などを検討

事業成果の周知支援

- 1) ウェルネス会議の開催支援
- 2) 成果報告



商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に向けた今後の取組方向性の検討

Ⅱ 商業施設における子どもの居場所づくりに向けた実証研究等支援

これまでの事業で実施したモルックおよびデジタル系プログラムの進化と、子どもの居場所づくりに関連する新たな取組の可能性検討に向け、下記のような支援を行った。

1 過年度事業における取組の進化に向けた実証支援

1-1 モルック

今年度事業においては、地域住民や子たちにモルックの遊び方をレクチャーできる指導者育成および地域住民等の利用促進を目的にイベント等を実施した。


今年度も昨年度に引き続き、2023 年度に開設したモルック場（通称：たるっく）と、2024 年 9 月に北海道済生会が開設した済生会スポーツスクエアの 2 拠点での体験会・大会に加え、地域の介護予防教室、小学校等を対象とした出前体験会なども実施した。

なお、北海道済生会では、2024 年 5 月からモルック場に専任スタッフを配置し、モルック場の管理と利用者に対し遊び方などのレクチャーを行っている。また、2025 年度よりモルックをはじめとしたニュースポーツに取り組む部活動「済生会ゆるスポ倶楽部」が発足し、大会参加や普及活動を行っている。

1) モルックイベントの開催

今年度実施したイベントは次に示す通り。

イベント概要	
1	<p>地域におけるモルック普及活動</p>  <p>【実施概要】 地域の会館や市民センター等に指導員を派遣し、介護予防教室、町会、老人クラブ等を対象としたモルック体験会を実施した。</p>

	<p>【開催日時】 2025/4/17(木)～2026/3/9(月)の間に計 11 回</p> <p>【参加者】 新光東会館、産業会館、銭函市民センター等で、全 11 回合計 240 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p> <p>※少なくとも 4 か所でモルック同好会が発足して継続的に活動している。</p>
2	<p>放課後等児童デイサービス等のモルック体験</p> <p>【実施概要】 ウイングベイ小樽のモルック場で児童向けのモルック体験を実施した。</p> <p>【開催日時】 4/3 (木) ～3/31 (火) までの間で、のべ 5 つの事業所が利用</p> <p>【参加者】 児童と職員、合計 60 名</p> <p>【参加者】 ※複数の事業所がモルックを購入するなどして継続している。</p>
3	<p>小学校でのモルック体験</p>  <p>【実施概要】 小学校を訪問し、学年レクで親子向けのモルック・ボッチャ体験会を実施した。モルック指導者として、モルック場を毎日利用しているプレイヤー（70代）1名の協力を得た。</p> <p>【開催日時】 2025/11/26(水) 15:00～16:30</p> <p>【参加者】 小学校 3 年生の生徒と保護者、合計 50 名</p>

	<p>【指導者】 北海道済生会スタッフ、WB モルック（小樽市内のモルックチーム）</p>
4	<p>定時制高校の体育大会でのモルック大会</p> <p>【実施概要】 小樽市内の高校（定時制）を訪問し、体育大会でモルック競技のルール説明・大会補助を行った。</p> <p>【開催日時】 2025/10/10（金） 17:30～19:00</p> <p>【参加者】 定時制高校の生徒および教員、合計 30 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ ※教員の指導の下でモルックに継続的に取り組んでいる。</p>
5	<p>老人クラブ連合会のモルック大会</p>  <p>【実施概要】 「ガトーキングダム札幌（札幌市北区）にて、」石狩地区の老人クラブ連合会を対象に、モルックのルール説明・大会と済生会小樽病院スタッフによる健康測定会を実施した。</p> <p>【開催日時】 2025/11/20（木） 13:00～16:00</p> <p>【参加者】 石狩管内の高齢者、合計 40 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p>

6 小樽市のスポーツイベントへのモルック体験の出展



【実施概要】

小樽市スポーツフェスティバルにモルック・ボッチャブースを出展した。
指導者として済生会ゆるスポ倶楽部の会員が参加した。

【開催日時】

2025/9/14（日）10:00～12:00

【参加者】

小樽市民（主に小学生とその保護者）100名

【指導者】

北海道済生会スタッフ、済生会ゆるスポ倶楽部

7 オレンジかふえ内でのモルック大会



【実施概要】

ウイングベイ小樽で行われた認知症カフェ「オレンジかふえ」内で、モルック大会を実施した。

【開催日時】

	<p>2025/10/28 (火) 10:00～12:00</p> <p>【参加者】 オレンジかふえ参加者。合計 25 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p>
8	<p>小樽くらしたい共生フェス内でのモルック大会</p>  <p>【実施概要】 午前中はモルック体験会を、午後はモルック大会を実施した。体験会スタッフとして、地元の大学モルックサークルの協力があつた。</p> <p>【開催日時】 2025/9/7 (日) 10:00～17:00</p> <p>【参加者】 体験会 10 名、大会 12 チーム 35 名、合計 45 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ、小樽商科大学モルックサークル</p>
9	<p>オアソビプロジェクトコラボ企画</p> <p>※オアソビプロジェクト 2025 (北海道大学 COI-NEXT・小樽商科大学・小樽市の共催) とのコラボ企画</p>



【実施概要】

午前中は北海道大学モルックサークル・小樽商科大学モルックサークルによる「レアスポーツ体験会」を、午後は「学生モルック大会」を実施した。

【開催日時】

2025/11/29（土）体験会 10:30～12:30、大会 13:00～16:30

【対象】

体験会：地域住民や買い物客 20 名

大会：小学生・中学生・高校生・大学生、10 チーム計 35 名

【指導者】

北海道済生会スタッフ、北海道大学モルックサークル、小樽商科大学モルックサークル

10 北ガス小樽支店とコラボしたモルック大会

【実施概要】

小樽市内のチームによるモルック大会を実施した。

【開催日時】

①2025/5/4（日）13:00～16:00 ②2025/10/11（土）13:00～16:00

【参加者】

①8 チーム 20 名 ②10 チーム 35 名

【指導者】

北海道済生会スタッフ

12 市内のモルック団体主催のモルック大会



【実施概要】

小樽市内のモルック団体主催のモルック大会が行われた。

【開催日時】

- ①7/12 (土) 13:00～16:30 第4回モルック小樽 CUP
- ②1/17 (土) 13:00～16:30 第5回モルック小樽 CUP
- ③3/8 (土) 13:00～16:30 春のニャルック杯

【参加者】

3回の合計 30 チーム、のべ 80 名

【指導者】

- ①②モルック小樽 CUP 運営委員会
- ③NPO 法人猫のシェルターアリエル

2) モルック場の利用状況

平日は、2025年4月1日から2026年3月16日までの間に、合計4,433名、1日平均19.06名(2024年度12.79名)の利用があった。午前中から昼にかけては地域の高齢者が健康づくりの一環として、夕方から夜間にかけてはモルック団体に所属するプレイヤーが練習のために利用している。

土日祝日は、同期間中に合計1,896枠、1日平均15.8枠(予約1枠あたり1コート1時間の利用)の利用があった。平日と比べると市外から来たモルックチームが練習に訪れることが多く、自主開催の合同練習会や大会も多くみられる。

3) 実証結果

今年度は、指導者育成とモルック場の利用促進を目的に体験会などを実施した。

本事業で想定した指導者育成とは、地域住民や子どもたちにモルックの遊び方をレクチャーできる人材を育てることである。こうした人材育成においては、モルックを体験する中で、ゲームを楽しむことに加えて、参加者自身が自力で試合を進行できる能力を身に着けることに重点を置いた。

結果として、参加者が体験会を機に市内にモルック同好会を設立したり、家族や知人にモルックを教えるためにモルック場を利用したりして、モルック大会にも参加するという成果が得られた。

利用促進の面でも、多くの出張体験会を実施して小樽市内におけるモルックの認知度が向上したことで、平日の利用者数が前年度比で約 1.5 倍と大きく増加した。

4) 持続可能な運営モデルの検討

2026年5月より、コート利用の有料化を予定している。平日・土日祝日それぞれで1コート・1時間あたりの利用料を徴収し、備品の購入費をはじめとする施設運営費に充てる予定である。

1-2 デジタル系ものづくり

今年度は、昨年度参加者から好評を得た 3D プリンターの講座をはじめ、これまでも使用してきた「Blender」を活用した講座を開催した。

具体的には、3D プリンターの基礎的な使い方や既存の 3D データを実際に 3D プリンターで出力する 3D プリンターチャレンジ講座、Blender で 3DCG データを作成し動画をつくる連続講座、Blender で作成したオリジナルの 3D データを 3D プリンターで出力する Blender×3D プリンター講座を実施した。

なお、今年度は各講座とも有料（1日・1人あたり 1,000 円）とした。

今年度開催した講座やイベントは下表に示す通りで、それぞれの開催概要については次頁以降に示す通りである。

区分	開催日
3D プリンターチャレンジ講座	2025/10/25(土) 、11/29(土)
3DCG 合成でショート動画づくり講座	
3DCG 基礎講習 1・2	① 2025/12/6(土)～7(日) ② 2025/12/13(土)～14(日)
VFX 講習 1・2	① 2026/1/17(土)～18(日) ② 2026/1/24(土)～25(日)
Blender×3D プリンター講座	2026/1/31(土)
デジタル系ものづくりデモンストレーション (オアソビプロジェクトとのコラボ企画)	2025/11/29(日)

1) 実施内容

① 3D プリンターチャレンジ講座

小学生から大人までを対象に 3D プリンターの基本的な操作、オンライン上にある既存の 3D データを 3D プリンターで出力する体験会イベントを開催した。

イベントの概要は、下記に示す通りである。

「やってみたい」を「ひとりできた！」に変える
3Dプリンターチャレンジ講座
 ソフト操作からプリンターでの出力まで体験できる実践型講座で「自分ひとりでも3Dプリンターを動かせる力」を身につけよう！

こんな方におすすめ
 「データはあるけど、どうやって出力するの？」
 「どんなものが作れるの？」
 「ひとりでも操作できるかな？」
 「自分のアイデアを形にしたい！」
 「新しいものづくりに挑戦したい！」
 「3Dプリンターを使いたい！」

日程：10月25日(土) 13:30~16:30
場所：ウイングベイ小樽2階2番街ワークスクエア内
対象者：3Dプリンターに興味がある人
※小学4年生以下は保護者同伴でご参加ください。
定員：10名
※申込多数の場合、抽選となります。
参加費：おひとり1,000円
申込方法：裏面をご覧ください

競輪の補助事業 このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

この講座で学べること

- 2025年のトレンド！人気の3Dプリンターは？
- 3Dプリントソフトの基本操作
- スマホからのかんたん操作方法
- 実践！3Dプリンターで出力
- ひとりでもスタートするためのステップ
- 放課後や長期休みに使いこなすコツ

講師：おーみ先生 (16名の3Dプリンターを習って使いこなしている人)
株式会社ピーククリエイティブジャパン 代表 大庭 悠史 氏 (おとうみえみ)
 ネットを仕込み過ぎるストーリーのある商品の企画開発制作販売。
 映画【こんな夜更けにバナナかよ】全国映画館公認グッズ制作販売。
 北海道厚生会・小樽労働福祉会館と北海道福祉会が共同開催し、北海道お土産グランプリで賞状を受賞した「おたる水産店」のプロデューサー。
 モンづくり系モルッカー。平井理央さんMCのバラスポーツフリートーク番組「ラジオ/渋谷の体育会系キョウロウ出演 毎週日曜日21時から！」

【お申込みフォーム】
<https://forms.office.com/r/su85ufqjtk>

【お申込み期限】
10月19日(日) 23:59

【お申込み条件】
 ・ノートパソコン(スペック不明)とマウスをお持ちの方は、ご持参ください。
 当日、専用ソフトをインストールしていただきます。
 ・ノートパソコンとマウスをご持参できない方は、お申込みフォームでその旨をご返信ください。

【参加費のお支払い方法】
 講座にお申込みいただいた方に【お申込み受付】メールをお送りいたします。
 そちらに参加費のお支払い方法などを記載しておりますのでご確認ください。

主催 北海道厚生会
後援 小樽市・小樽市教育委員会
お問合せ先 北海道二十一世紀総合研究所 担当：岩谷
 mail: health@htri.co.jp TEL: 011-231-3053

「やってみたい」を「ひとりできた！」に変える
3Dプリンターチャレンジ講座
 ソフト操作からプリンターでの出力まで体験できる実践型講座で「自分ひとりでも3Dプリンターを動かせる力」を身につけよう！

こんな方におすすめ
 「オンライン上にあるデータを印刷してみたい！」
 「AIで作ったデータを印刷してみたい！」
 「ひとりでも操作できるようにしたい！」
 「自分のアイデアを形にしたい！」
 「新しいものづくりに挑戦したい！」
 「3Dプリンターを使いたい！」
 「イベントで使えるオリジナル作品を作りたい！」

日程：11月29日(土) 13:30~16:30
場所：ウイングベイ小樽2番街2階厚生会ワークスクエア内
対象者：3Dプリンターに興味がある人はどなたでも
※小学4年生以下は保護者同伴でご参加ください。
定員：10名
※申込多数の場合、抽選となります。
参加費：おひとり1,000円(材料費込み)

【お申込みフォーム】
<https://forms.office.com/r/eLNND6gbAr>
【お申込み期限】
11月24日(月) 23:59

競輪の補助事業 このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

この講座で学べること

- 2025年のトレンド！人気の3Dプリンターは？
- 3Dプリントソフトの基本操作
- スマホからのかんたん操作方法
- 実践！3Dプリンターで出力
- ひとりでもスタートするためのステップ
- 家事や仕事の間にできるシンプルな操作
- イベント出店やワークショップに活かせる実用的なノウハウ

講師：おーみ先生 (16名の3Dプリンターを習って使いこなしている人)
株式会社ピーククリエイティブジャパン 代表 大庭 悠史 氏 (おとうみえみ)
 ネットを仕込み過ぎるストーリーのある商品の企画開発制作販売。
 映画【こんな夜更けにバナナかよ】全国映画館公認グッズ制作販売。
 北海道厚生会・小樽労働福祉会館と北海道福祉会が共同開催し、北海道お土産グランプリで賞状を受賞した「おたる水産店」のプロデューサー。
 モンづくり系モルッカー。平井理央さんMCのバラスポーツフリートーク番組「ラジオ/渋谷の体育会系キョウロウ出演 毎週日曜日21時から！」

【お申込み条件】
 ・ノートパソコン(スペック不明)とマウスをお持ちの方は、ご持参ください。
 当日、専用ソフトをインストールしていただきます。
 ・ノートパソコンとマウスをご持参できない方は、お申込みフォームでその旨をご返信ください。

【参加費のお支払い方法】
 講座にお申込みいただいた方に【お申込み受付】メールをお送りいたします。
 そちらに参加費のお支払い方法などを記載しておりますのでご確認ください。

主催 北海道厚生会
後援 小樽市・小樽市教育委員会
お問合せ先 北海道二十一世紀総合研究所 担当：岩谷
 mail: health@htri.co.jp TEL: 011-231-3053

	概要
日時	① 2025/10/25(土) ② 2025/11/29(土)
時間	13:30～16:30
場所	ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスクエア
参加者	① 3名(小学生2名、大人1名) ② 11名(小学生3名、中学生1名、高校生1名、大人6名)
講師	(株)エムブイピークリエイティブジャパン代表 大海恵聖
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Dプリンターの種類や特徴の話 ・ プリント可能なデータ ・ スライサーの使い方 ・ 実機を使った3Dプリンターの使い方 ・ テストプリント→実践
講座の様子	

② 3DCG 合成でショート動画づくり講座

Blender を使用し、3DCG の基礎講習(2 日間)と VFX 講習(動画づくり)(2 日間)を組み合わせた講座を実施した。

それぞれの講座の概要は、次頁以降に示す通りである。

はじめての“重ね技”VFX映像



3DCG 合成で ショート動画 づくり講座

第1回
3DCG基礎講習1
12/6⁺ または 12/13⁺
簡単なアイテムを作って操作に慣れよう！

第2回
3DCG基礎講習2
12/7^日 または 12/14^日
ショート動画に使うアイテムを作ろう！

第3回
VFX講習1
(初心者向け)
1/17⁺ または 1/24⁺
動画の素材を撮影しよう！

第4回
VFX講習2
(初心者向け)
1/18^日 または 1/25^日
映像を重ねたショート動画をつくろう！

初心者
大歓迎

参加費
おひとり
全4回
4,000円
各回1,000円

定員
各日程
10名

時間 10:30～15:30 (休養1時間あり)

場所 ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスエア内 〒047-0008 小樽市扇港11

対象者 小学校4年生以上～大人

裏面の申込条件・申込方法をご確認のうえ、お申込みください



競輪の補助事業 このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

講師紹介



キクちゃん 先生
デジタルイラストレーター
monmei (モンメイ)
デザイナー
ARクリエイター
Blenderを使って創造的な作品を作っています。



ハナエ 先生
イラストレーター/
3DCGデザイナー
アパレル職人
身につけたい着飾りを作るのが好きです。

お申込み条件

- お申込みいただく全日程で、現地参加が可能であること
- 作品、肖像を含む記録映像・画像の広報利用に同意すること
- 本講習は、まずは3DCG基礎講習を受講し、次にVFX講習を受講するセット受講を想定しておりますが、3DCG基礎講習のみの受講も受け付けます。
- VFX講習については、昨年度のBlender講習を受講した方に限り、VFX講習のみの受講を受け付けます。(詳しくは申込フォームをご確認ください)

お問い

- 下記①②の機材を持参できる場合はご持参ください。
ご持参できない場合、お申込みフォームでその旨ご回答ください。
- ①無料ソフトBlenderをインストールしたノートPC
(Blenderがスムーズに作動すること)
- ②3つボタンマウス
- CGの知識経験は問わない
(基本的なPC操作ができる初心者を想定した講義レベル)
- ⚠ 条件を満たさない場合、お申込みをお受けできない場合がございます。

参加費のお支払い方法

■講習にお申込みいただいた方に【お申込み受付】メールをお送りいたします。
そちらに参加費のお支払い方法を記載してありますのでご確認ください。

お申込みフォーム

<https://forms.office.com/r/8Tvj4P1cdd>

申込期限

2025年11月30日(日) 23:59
※定員になり次第、締め切らせていただきます。





「CG合成でショート動画づくり講座」
申込フォーム

主催 北海道済生会
後援 小樽市・小樽市教育委員会
お問合わせ先 北海道二十一世紀総合研究所 担当：岩谷
mail: health@htrf.co.jp TEL: 011-231-3053

ア) 3DCG 基礎講座

	講座の概要
日時	日程① 2025/12/6(土)～7(日) 日程② 2025/12/13(土)～14(日)
時間	10:30～15:30 (途中、1時間休憩)
場所	ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスクエア
参加者	日程① 12/6(土) 8名 (小学生2名、大人6名) 12/7(日) 6名 (小学生1名、大人5名) 日程② 12/13(土) 7名 (小学生1名、中学生1名、大人5名) 12/14(日) 11名 (小学生2名、中学生1名、大人8名)
講師	モコモコスタジオ クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
プログラム	【1日目】 ・Blenderの基本操作 【2日目】 ・ロボットを自作しアニメーションをつける
講座の様子	

イ) VFX 講座

	講座の概要
日時	日程① 2026/1/17(土)～18(日) 日程② 2026/1/24(土)～25(日)
時間	10:30～15:30 (途中、1時間休憩)
場所	ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスクエア
参加者	日程① 1/17(土) 7名 (小学生1名、大人6名) 1/18(日) 6名(小学生1名、大人5名) 日程② 1/24(土) 7名 (小学生1名、中学生1名、大人5名) 1/25(日) 7名 (小学生1名、中学生1名、大人5名)
講師	モコモコスタジオ クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
プログラム	<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Blender物理演算、物理演算を使ったVFX (①塔の動画【わなげ】) ・物理演算を使ったVFX (②塔の動画【布が落ちる】)、魚のアニメーションと魚のVFX 【①塔を使用してパスに追従】 <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・mixamoを使ったVFX (定点カメラ+キャラクター) ・モーショントラッキングを使ったVFX (カメラに追従) ・自由制作
講座の様子	   

③ Blender×3D プリンター講座

先述した ROBLOX 講座は、各自が自分のゲームを制作するものであったが、参加者が共同でゲーム空間を制作するイベントを実施した。

このイベントは、参加者同士のコミュニケーション促進、お互いのスキルアップ、横のつながりの構築を目的として実施した。

講座の概要は、下記に示す通りである。



3Dデータから“実物”へ!!
Blender×3Dプリンター講座
 ゼンマイ仕掛けの歩くおもちゃを作ろう!

日にち **2026.1.31(土)**
 時間 **10:30-16:30 (休憩1時間)**
 場所 **ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスクエア**
 参加費 **おひとり1000円**
※当日、お申し込み人数で定員が異なります。
 お申し込み **<https://forms.office.com/r/3auAC9U7DL>**

定員 **12名**
 先着順

Blender講師
 キクラちゃん先生 ハナエ先生

3Dプリンター講師
 JOC
 おーみ先生

申込期限 **2026.1.25(日) 23:59**
※定員になり次第、締め切ります。

主催 北海道済生会
 共同開催先 株式会社海道二十一世紀総合研究所
 担当：田谷

講座の概要	
日時	2026/1/31 (土)
時間	10:30~16:30
場所	ウイングベイ小樽2番街2階 済生会ワークスクエア
参加者	8名 (中学生1名、大人7名)
講師	モコモコスタジオ クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵 (株)エムブイピークリエイティブジャパン代表 大海恵聖
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインシートを使ってキャラクターをデザイン ・3Dプリンターで出力
講座の様子	   

④ デジタル系ものづくりデモンストレーション

前年度より実施してきた Blender 講座では 3D モデルの制作を行ってきたが、今年度はこれらのデジタル空間上で制作したモデルを 3D プリンターで出力する 3D プリンター講座も実施した。

講座の概要は、下記に示す通りである。

体験会の概要	
日時	2025/11/29(土)
時間	12:15～12:45
場所	ウイングベイ小樽 5 番街 1 階 ネイチャーチャムバー
登壇	モコモコスタジオ クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度事業のご紹介 ・3D プリンター実演
デモンストレーションの様子	

2) 実証参加者の評価の把握

デジタル系ものづくりに対する評価等を把握するため、講習等への参加者を対象としたアンケート調査を実施した。

主な結果をみると、参加者の満足度は総じて高く、講師の説明のわかりやすさや参加しやすい雰囲気、実際に手を動かしながら学べる実践的な内容が高く評価されていることがわかる。参加費についても、1,000円は適正または安価と受け止められており、内容に対する納得感が高かったと考えられる。また、多くの参加者が継続参加や発展的な講座への参加意向を示しており、各イベントが単発の体験にとどまらず、デジタルものづくり分野への関心や学習意欲を高める機会として機能していたことがうかがえる。

一方で、初心者にとっては情報量が多く、操作がやや難しいと感じる場面も見られたほか、一部では講座時間や実施期間の短さを指摘する声もあった。また、参加者の経験や習熟度に差があることから、今後は基礎編と発展編のようにレベルに応じた講座設計等の検討が必要である。

以上を踏まえると、これらのイベントは、3Dプリンター、3DCG、VFXといったデジタルものづくり分野への入口として有効に機能しており、地域における継続的な学びや実践活動へつなげていくための基盤づくりに寄与したものと評価できる。

区分	主なアンケート結果
3D プリンター チャレンジ講座 回答者：8名	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度は「とても満足」7件、「まあまあ満足」1件で高評価。 学びや体験については、「できた」3件、「ある程度できた」5件で、おおむね目的は達成。 講座後の行動変容も大きく、全員が「使ってみたい」または「購入したい」と回答。 <p>時間・内容・価格</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間は「ちょうどよい」5件、「短すぎた」3件。 内容は「ちょうどよかった」6件、「物足りなかった」2件。 参加費1,000円は「ちょうどよい」6件、「安い」2件。 今後の許容額は1,000円程度が中心（5件）だが、内容次第でより高額でも参加したいという声も2件。 <p>利用者評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めてでも楽しめ、達成感が高い体験型講座として評価されている。 実際に出力まで見られることや、作品を持ち帰れることが満足度につながっている。 一方で、初心者には操作理解や時間配分がやや難しい場面もあった。 継続参加意向は8件全員が「参加したい」で非常に高い。

	<p>今後に向けた示唆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者向けには、操作説明をもう少し丁寧にすることが有効。 ・ 応用ニーズのある参加者向けに、より実践的・発展的な続編企画が期待される。 ・ 参加者同士のつながりは「できていない」5件で、コミュニティ化は今後の課題。
--	--

<p>3DCG 基礎講習 回答者：8名</p>	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度は「とても満足」7件、「まあまあ満足」1件で高評価。 ・ 参加者の6件が「Blender初体験」であり、初心者向け講座として機能している。 ・ 「新しいことを学びたい」「動画やキャラクター制作に活かしたい」といった前向きな参加動機が多い。 <p>時間・内容・価格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日4時間は「ちょうどよい」6件で概ね適正。 ・ 2日間の期間は「ちょうどよい」5件だが、「短すぎた」2件。 ・ 内容は「ちょうどよかった」5件が中心だが、「情報量が多すぎた・難しかった」2件、「物足りなかった」1件。 ・ 参加費は8件全員が「ちょうどよい」と回答。 <p>利用者評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者でも楽しみながら学べる雰囲気が高く評価されている。 ・ 講師の説明のわかりやすさ、親しみやすさへの言及が多い。 ・ 一方で、参加者のレベル差があり、初心者には少し情報量が多い一方、経験者にはやや物足りない面もある。 <p>今後に向けた示唆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者向け基礎編と経験者向け発展編に分けると満足度をさらに高めやすい。 ・ 参加希望テーマは、映像制作、AR/VR、デジタルアートが多い。 ・ 指導協力については「協力できる」4件あり、将来的な地域人材の担い手候補も見込める。
---------------------------------	--

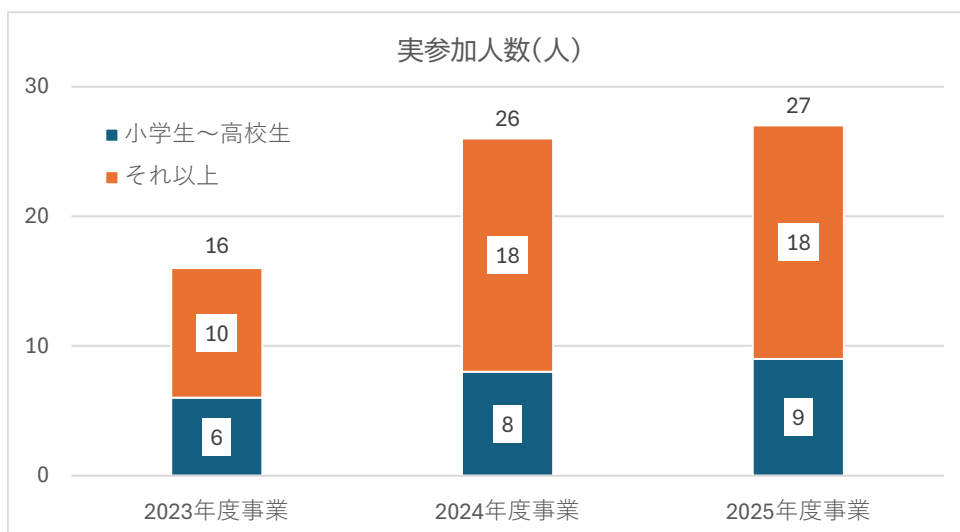
<p>VFX 講習 回答者：6名</p>	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度は全員が「とても満足」。 ・ 参加理由は、動画表現への興味、キャラクターを動かしたい、仕事に活かしたいなど多様。 ・ 趣味だけでなく、教育や仕事への活用可能性も見られる。 <p>時間・内容・価格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日4時間は「ちょうどよい」4件、「短すぎた」2件。 ・ 2日間の期間も「ちょうどよい」4件、「短すぎた」2件。
--------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容は「ちょうどよかった」5件、「物足りなかった」1件。 ・ 参加費は「ちょうどよい」4件、「安い」2件で、価格面の評価も高い。 ・ 今後の参加費許容額は、1,000円・2,000円・内容次第で高くても可がそれぞれ2件ずつで分散。 <p>利用者評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度が最も安定して高い講座の一つ。 ・ 特に、講師のわかりやすさや参加しやすい雰囲気への評価が良い。 ・ 一部で、もっと学びたいので期間や時間を増やしてほしいという需要がある。 ・ 「毎週開催してほしい」という声もあり、継続性への期待がうかがえる。 <p>今後に向けた示唆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VFXは参加者の関心が高く、定期開催や続編企画に向くテーマ。 ・ 事前に内容イメージや準備事項を示すと、さらに参加しやすくなる。 ・ 教材紹介や参考書籍案内など、学習継続の仕組みを加えると良い。
<p>Blender× 3Dプリンター講座 回答者：5名</p>	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度は全員が「とても満足」。 ・ 内容評価も全員が「ちょうどよかった」。 ・ 特に、3DCGデータ作成から3Dプリント造形までを一連で体験できる点が、全員から高評価。 <p>時間・内容・価格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日5時間は「ちょうどよい」4件、「短すぎた」1件。 ・ 1日完結の期間も「ちょうどよい」4件、「短すぎた」1件。 ・ 参加費は「ちょうどよい」3件、「安い」2件。 ・ 今後の参加費許容額は、「内容次第で高くても参加したい」3件で、4イベントの中でも比較的高い。 <p>利用者評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作から出力までを一気通貫で体験できる完成度の高い講座として受け止められている。 ・ 「楽しかった」「勉強になった」「今後の制作に活かしたい」といった、満足と活用意欲が強い。 ・ 改善点としては一部、機材面の具体的な提案があり、参加者の関心の深さがうかがえる。 <p>今後に向けた示唆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この講座は、満足度と価格受容性の両面で非常に評価が高い。 ・ 3D制作と出力をセットにした講座は、今後の中核コンテンツになりうる。 ・ 発展編や作品制作型の継続講座につなげやすい。

3) 実証参加者数の推移

今年度は、体験型講座4種類(全11日)、デモンストレーション(1日)の計12日間にわたりイベントを開催した。

実参加人数を経年でみると、増加傾向となっており、今年度は27名であった。また、各イベントの参加延べ人数の合計は81人となっており、昨年度と比較するとわずかに減少しているが、イベント実施が冬期間であったため天候不良(大雪)やインフルエンザによる直前でのキャンセルが相次いだことも影響している。



2023年度

	各イベント参加実人数					各イベント参加延べ人数				
	小学生	中学生	高校生	それ以上	計	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
1 子ども向けBlender講座	3				3	9				9
2 大人向けBlender講座	1			8	9	2			16	18
3 一般向け3DCG制作体験会	5			2	7	5			2	7
計	9	0	0	10	19	16	0	0	18	34

	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
2023年度事業 参加実人数	6			10	16

2024年度

	各イベント参加実人数					各イベント参加延べ人数				
	小学生	中学生	高校生	それ以上	計	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
1 自分のゲームを作ろう	5	1	1	3	10	5	1	1	3	10
2 Blender講座	1	2	1	15	19	2	4	2	30	38
3 ROBLOX講座	1	2		7	10	2	4		14	20
4 ROBLOX共同制作	2	1	1	3	7	2	1	1	3	7
5 3Dプリンター講座	1			11	12	1			11	12
計	10	6	3	39	58	12	10	4	61	87

	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
2024年度事業 参加実人数	5	2	1	18	26

2025年度

	各イベント参加実人数					各イベント参加延べ人数				
	小学生	中学生	高校生	それ以上	計	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
1 3Dプリンターチャレンジ講座	4	1	1	7	13	5	1	1	7	14
2 3DCG基礎講座	3	1		14	18	6	2		24	32
3 VFX講座	2	1		11	14	4	2		21	27
4 Blender×3Dプリンター講座	1	1		6	8	1	1		6	8
計	10	4	1	38	53	16	6	1	58	81

	小学生	中学生	高校生	それ以上	計
2025年度事業 参加実人数	6	2	1	18	27

4) 持続可能な運営モデルの検討

持続可能な運営モデルを構築していくためには、単に講座を継続開催するだけでなく、事業の目的、対象者、実施内容、運営体制、財源等を総合的に整理したうえで、無理のない形で継続できる仕組みを検討することが必要である。

特にデジタル系ものづくり分野の取組においては、参加者の関心喚起にとどまらず、継続的な学びや実践につなげていく視点が重要であり、そのためには、以下に示すような点を検討する必要がある。

① 対象者の設定

事業の持続性を高めるためには、どの層を主たる対象とするのかを明確にする必要がある。デジタルものづくりに初めて触れる初心者をも広く受け入れることは、本事業の入口として引き続き重要である一方、持続的な運営の観点からは、参加経験者の継続的な関与を促していくことも不可欠である。

このため、今後は初心者の裾野拡大を基本としつつ、継続参加者の育成をあわせて進める二層型の対象者設定としていくことが望ましい。入門段階では参加しやすさを重視し、その後、関心や意欲の高い参加者については発展的な講座や実践機会につなげていく方向で整理することが考えられる。

② 講座体系の設計

持続可能な運営のためには、単発の体験型講座のみならず、参加者が段階的に学びを深められる講座体系を整備する必要がある。今回のアンケート結果からは、入門的な体験に対する高い評価とあわせて、「より深く学びたい」「時間を延ばしてほしい」といったニーズも確認されている。

このため、今後は入門講座を基礎としながら、基礎編、応用編、作品制作型講座へと段階的に発展できる講座体系の構築を目指すことが望ましい。

これにより、初回参加をきっかけとした継続参加の流れを生み出しやすくなり、参加者の学習意欲を地域内での継続的な活動につなげていくことが可能になると考えられる。

③ 価格設定

価格設定については、参加しやすさの確保と、講座内容に応じた適正な受益者負担の両立を図る必要がある。今回導入した1回当たり1,000円という参加費は、参加者から概ね適正又は安価と受け止められており、有料化に対する一定の受容性が確認された。

このため、今後は入門的な講座については現在の価格帯を基本としつつ、実施時間が長いあるいは複数回に渡る講座、専門性が高く制作工程が多い講座等について

は、内容に応じた段階的な価格設定の導入を検討することも考えられる。

その際には、価格上昇が参加障壁とならないよう、講座内容や得られる体験価値を明確に示しながら、納得感のある価格設定を進めていくことが必要である。

④ 利用者獲得

事業の継続には、安定的に参加者を確保するための仕組みづくりが不可欠であり、新規参加者の裾野拡大と、リピーターの参加促進を両輪として進めることが重要となる。新規層に対しては、事業の認知向上や参加ハードルの低減を重視し、学校や地域団体、関係機関との連携を通じた周知を強化することが望ましい。

一方、リピーターに対しては、次の講座案内や発展的なプログラムの提示を行うことで、継続的な参加を促していくことが必要である。

なお、今年度事業においても、公式 LINE「ウエルネス知恵袋」、講師の SNS による情報発信、過年度事業参加者に対するご案内の送付に加え、小樽市や教育委員会との連携により、市役所内や学校などにチラシを配布するなど、リピーター確保や新規参加者獲得に向けた周知を行っており、今後もこうした周知活動を継続することが重要である。

⑤ 継続参加の仕組み

本事業を単発の体験で終わらせず、継続的な学びや実践につなげるためには、参加者が関わり続けられる仕組みを整える必要がある。特に、デジタル系ものづくり分野では、継続的にツールに触れる機会の有無がスキルアップにも大きく影響する。

このため、今後は入門講座受講後に次の講座へ進める導線を明確にするとともに、継続的な情報提供や作品発表、参加者同士の交流等の機会をつくることで、参加者の関心や学習意欲を一過性のものにせず、地域内での継続的な学びの場として定着させていくことが期待される。

これまでも講師が講座参加者向けに Discord による交流の場を設定しているため、講師との連携により、このコミュニティ機能を強化していくことも考えられる。

⑥ 実施体制

事業を継続的に運営していくためには、講師、運営補助者、会場・機材管理、広報、参加者対応等の役割を整理したうえで、無理のない体制を構築する必要がある。

将来的には地域における持続可能な取組に発展させることが理想であることから、これまでの参加者や地域人材が運営補助や指導支援に関わる仕組みを確立することが必要である。

⑦ 財源確保

持続可能な運営を図るためには、講師謝金、機材レンタル費、広報費等のコストを把握したうえで、安定的な財源のあり方を検討する必要がある。参加費収入には一定の可能性がある一方で、そのみで全体を賄うことには限界があると考えられる。

このため、今後は参加費収入を一定程度活用しつつ、公的支援、補助制度、協賛、関係機関との連携等を組み合わせた複線的な財源構成を目指すことが望ましい。

特に、入門的な学びの場としての公共性と、発展的な講座における受益者負担の考え方を整理しながら、事業の性格に応じた財源の組み立てを進めることが必要である。

⑧ 開催条件・実施時期

今回の実証では、冬期間の開催により、大雪や感染症流行の影響を受け、直前キャンセルが発生した。こうした外的要因は参加者数に影響するため、安定運営の観点からは、開催時期や実施条件の見直しも重要である。

今後は、天候や感染症等の影響を受けにくい時期への実施分散等の検討が必要である。また、やむを得ないキャンセルが一定程度発生することを前提に、定員設定や申込管理を工夫するなど、外的要因を織り込んだ運営方法を整えることも必要である。

⑨ 評価方法

事業を継続的に改善していくためには、参加人数や延べ参加者数だけでなく、満足度、リピート意向、学習継続の状況、地域内での実践や波及などを把握することで、事業効果をより適切に評価することが可能となる。

今後は参加人数に加え、リピート率、満足度、次段階講座への移行状況等を含む評価指標を設定し、翌年度の講座改善や運営見直しに反映していく方向が望ましい。単年度の参加実績のみを評価するのではなく、学びの継続や地域内での活動への波及を視野に入れた評価の枠組みを整備することが重要である。

本事業においては、初心者の裾野拡大を基本としつつ、継続参加者の育成へとつなげる段階的な講座体系を整備し、その内容に応じた価格設定と運営体制の安定化を図る方向で進めていくことが望ましい。

また、関係機関との連携やリピートを促す仕組みづくりを進めることで、単発の体験機会にとどまらない、地域に根差したデジタル系ものづくりの学びの場として発展させていくことが期待される。


2 新たな取組の可能性検討に係る実証支援

2-1 ボッチャ

過年度事業で実施した地域の中高校生等を対象としたアンケート結果を踏まえ、今年度は済生会スポーツスクエアにおいてボッチャを実施した。

1) ボッチャイベントの開催

今年度実施したイベントは次に示す通り。

1	<p>地域におけるボッチャ普及活動</p>  <p>【実施概要】 小樽市内の介護予防教室において、気軽に取り組めるニュースポーツとしてボッチャを紹介した。</p> <p>【開催日時】 2025/9/24～2026/2/12 のうちに計 4 回</p> <p>【参加者】 介護予防教室に通う高齢者、合計 80 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p> <p>※参加者の一部が、その後もボッチャ場を訪れてプレーしている</p>
2	<p>放課後等児童デイサービス等のボッチャ体験</p> <p>【実施概要】 放課後等児童デイサービスを訪問し、ボッチャ体験会を実施した。</p> <p>【開催日時】 2025/4/2（水）14:00～15:30、2025/8/22（金）14:00～15:30 の計 2 回</p> <p>【参加者】 児童と職員、合計 25 名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p> <p>※体験会を機にボッチャを継続してプレーしている</p>

3 小樽市のスポーツイベントへのモルック体験の出展



【実施概要】

小樽市スポーツフェスティバルにモルック・ボッチャブースを出展した。指導者として済生会ゆるスポ倶楽部の会員が参加した。

【開催日時】

2025/9/14（日）10:00～12:00

【参加者】

小樽市民（主に小学生とその保護者）100名

【指導者】

北海道済生会スタッフ、済生会ゆるスポ倶楽部

4 小学校でのボッチャ体験



【実施概要】

小学校を訪問し、学年レクで親子向けのモルック・ボッチャ体験会を実施した。

【開催日時】

2025/11/26(水) 15:00～16:30

【参加者】

小学校3年生の生徒と保護者、合計50名

【指導者】

北海道済生会スタッフ

5	<p>職員へのボッチャ普及</p> <p>【実施概要】 北海道済生会に部活動として発足した「済生会ゆるスポ倶楽部」の会員向けにボッチャの講習会を実施した。</p> <p>【開催日時】 2025/9/30（火）17:30-19:00</p> <p>【参加者】 済生会ゆるスポ倶楽部の会員、合計6名</p> <p>【指導者】 北海道済生会スタッフ</p>
---	---

2) ボッチャ場の利用状況

平日は、2025年4月1日から2026年3月16日までの間に、合計739名、1日平均3.0名の利用があった。モルックを練習したあとにボッチャを楽しむ利用者が多い。午前中は健康づくりの一環として楽しむ高齢者、午後は学校帰りの高校生や大学生が多く利用している。

土日祝日は、同期間中に合計263枠、1日平均2.19枠（予約1枠あたり1コート1時間の利用）の利用があった。大会シーズンである9月から12月にかけて、近隣のボッチャチームが練習に多く訪れている。

3) 実証結果

今年度はボッチャの認知度向上のために普及活動を実施した。パラリンピック種目として知名度の高いボッチャであるが、用具の価格の高さや健常者が体験できる場所の少なさから、プレー経験のある人口は多くない。

ボッチャ場を運営して継続的に普及活動を実施した結果、障がい者や高齢者だけでなく、高校生や大学生のような若者にも楽しめる競技であることが明らかになった。

4) 持続可能な運営モデルの検討

2026年5月より、コート利用の有料化を予定している。ボッチャ場については、土日祝日のみを有料化し、1コート・1時間あたりの利用料を徴収する。収益は備品の購入費をはじめとする施設運営費に充てる予定である。

5) 今後の方向性

今後も普及活動を続けるほか、2026年中には地域で初めてとなるボッチャ大会の開催し、ボッチャの認知度向上と継続的にボッチャ場を利用するプレイヤーの増加につなげることを検討している。

2-2 地域団体との連携による新たな取組の創出

北海道済生会では、ソーシャルインクルージョンの推進のため子ども、高齢者、障がい者、ひとり親世帯など、多様な背景を持つ人々が共に活躍できる街づくりを進めている。この取り組みは地域の民間企業からも強い共感を得ており、多様な主体との協働体制を構築する基盤となっている。

今年度は、民間企業との協働（株式会社 grande foresta 等との連携）で、済生会スポーツスクエアを会場とした「親子フェス」を年間 6 回開催した。イベントには延べ 2,100 名の児童および保護者が来場し、商業施設への集客に寄与するとともに、多様な家庭が安心して過ごせる地域コミュニティの場を創出した。

また、地域活動で得た知見や講師ネットワークを病院経営（健康経営）に活用する試みとして、「親子フェス」で好評の「バランスボール」を済生会小樽病院の職員向け福利厚生として実施した。2026 年 3 月より 4 回開催し、(株)grande foresta より協会認定の講師をインストラクターとして招き、有酸素運動によるリフレッシュを図った。延べ 39 名が参加した。

参加者に対するアンケート調査の結果、満足度、リフレッシュ効果、今後の継続希望の全項目において非常に満足・満足が 100%と極めて高い評価を得ており、「身体が温まり、肩こりや姿勢の改善を実感した」「音楽に合わせて弾む楽しさがあり、業務後のストレス発散になった」「職種の垣根を越えた交流の場として非常に有意義」との声が多数寄せられた。

本取組は、地域団体との連携による新たな取組の一つとなった。また、この取り組みで生まれた良質なコンテンツを「職員のウェルビーイング」に繋げるといふ、新しい循環モデルを確立した。今後もこうした連携を深め、多様な主体との協働による取組を継続していくことが重要と考える。



Ⅲ 商業施設における子育て期の就労等サポート機能強化に向けた実証支援

1 託児付きワーキングスペースの試行

商業施設における子育て期の就労等サポート機能強化においては、将来的に済生会ワークスクエア（ウイングベイ小樽 2 番街 2 階）を拠点として、ウイングベイ小樽のテナント企業等が外注したいと考えるちょっとした仕事と、子育て期のママ等の「子どものそばで働きたい」「育児の合間などの隙間時間を活用して働きたい」「本格的な職場復帰の前に少しずつ仕事に慣れたい」といったニーズをつなぐ仕組みづくりを目指している。

企業側にとっては、必要な時に必要な作業を依頼できる柔軟な人材確保の可能性があるが、子育て期のママ等にとっては、身近な場所で短時間から仕事に関われることによる就労参加のハードル低減が期待される。

こうした方向性を踏まえ、本事業においては子育て期のママ等にとって無理のない就労機会のあり方を検証するとともに、企業側にとっても必要な時間帯に必要な作業を補完できる仕組みとして成立し得るかを確認することを目的として、短時間就労に対するニーズの把握と試験的取組として「お仕事マッチング」の実証を行った。

1-1 短時間就労に対するニーズの把握

子育て期のママ等を対象として、平日の日中における短時間就労に対するニーズを把握するためのアンケート調査を実施した。

その結果、回答者 10 名のうち全員が、ウイングベイ小樽において平日の日中の隙間時間を活用した仕事に対して前向きな意向を示しており、うち 9 名は「やってみしたい」、1 名は「やってみたいが、会社で副業不可」と回答した。短時間の仕事そのものに対する関心は高く、子育て期のママ等に限らず、地域住民の中に柔軟な働き方への一定のニーズが存在することがうかがえた。

就労可能な時間については、1 時間程度、2 時間程度、3 時間程度を挙げる回答がいずれも多く、30 分程度の短時間から 4 時間程度まで、比較的幅広い時間帯に対応可能であることが確認された。また、試験的に実施した場合の参加意向についても、多くが「お仕事したい」又は「条件が合えばお仕事をしたい」と回答しており、曜日や開始・終了時間、自身の生活状況に応じた柔軟な条件設定があれば、実際の参加につながる可能性が高いことが示された。

仕事内容別にみると、印刷製本の補助業務に対する関心が最も高く、次いでクッキー・サブレづくりの補助業務への関心が高かった。一方、ジェラートづくりの補助業務については、他の業務と比べると希望者がやや少なかったものの、一定の関心は確認された。これらの結果から、短時間で区切って従事しやすく、作業内容が比較的わかりやすい業務は、お仕事マッチングの対象として受け入れられやすいことが

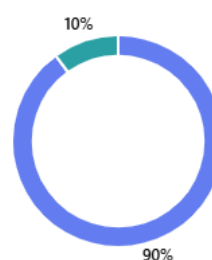
示唆された。

さらに、子どもの見守りの必要性については、回答者全員が「必要ない」としており、今回の回答者層においては、必ずしも見守り機能を前提としなくても就労参加の可能性があることが確認された。

以上を踏まえると、平日の日中における短時間就労に対する一定のニーズが確認されるとともに、仕事内容や時間設定の工夫によって実際の参加につながる見込みが得られた。

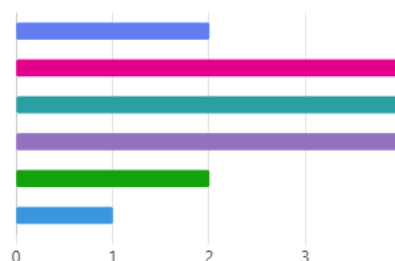
1. ウイングベイ小樽において平日の日中にちょっとした隙間時間を使ってできる仕事があった場合、やってみたいと思いますか？

● やってみたい	9
● やってみたいと思わない	0
● その他	1



2. ウイングベイ小樽において平日の日中にちょっとした隙間時間を使ってできる仕事があった場合、どの程度の時間の仕事であればできますか？（あてはまるものすべてを選択）

● 30分程度	2
● 1時間程度	4
● 2時間程度	4
● 3時間程度	4
● 4時間程度	2
● その他	1



3. ジェラートづくりのお手伝い

【内容】 ぶりもくクルームにて実施しているジェラートづくりのお手伝い

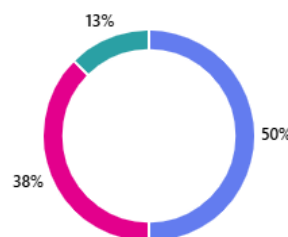
材料の計量、機械への材料投入、攪拌冷凍、取り出し、容器詰め・計量、機械の洗浄など

【時間】 平日の日中 30分

【時給】 1,075円（予定）

【交通費】 1日あたり500円支給（予定）

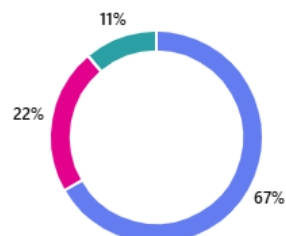
● やりたい	4
● やりたいと思わない	3
● その他	1



4. クッキーづくり、サブレづくりのお手伝い

【内容】 ぷりもくっくルームにて実施しているクッキーやサブレづくりのお手伝い
生地をこねる、材料の計量、形成や型抜き、焼き、封詰め、圧着・シール貼りなど
【時間】 平日の日中 30分、1時間、2時間、3時間、4時間から選択できます
【時給】 1,075円（予定）
【交通費】 1日あたり500円支給（予定）

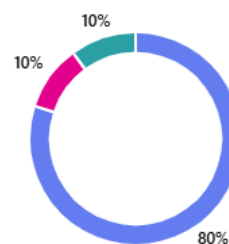
● やりたい	6
● やりたいと思わない	2
● その他	1



5. 印刷製本のお手伝い

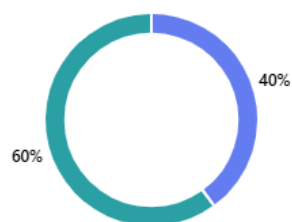
【内容】 製本(機械による自動作業)、裁断、印刷物のチェック（印刷の擦れ、ズレ等）、数量の確認、梱包・箱詰め。
【時間】 平日の日中 30分、1時間、2時間から選択できます
【時給】 1,075円（予定）
【交通費】 1日あたり500円支給（予定）

● やりたい	8
● やりたいと思わない	1
● その他	1



6. 今後、ウイングベイ小樽において、ジェラートづくりのお手伝い、クッキー・サブレづくりのお手伝い、印刷製本のお手伝いのお仕事マッチングを試験的に実施することを検討しております。
試験的に実施することとなった場合、実際にお仕事をしたいと思いますか？

● お仕事したい	4
● お仕事をしたいとは思わない	0
● 条件が合えばお仕事をしたい	6



8. 小さなお子さんがいる方がジェラートづくりのお手伝い、クッキー・サブレづくりのお手伝い、印刷製本のお手伝いのお仕事をする場合、北海道済生会の済生会ワークスケア（ウイングベイ小樽2番街2階）においてスタッフがお子さんの見守りをすることも検討しています。あなたがこれらのお仕事をする場合、お子さんの見守りは必要ですか？

● 必要 0
● 必要ない 10



1-2 実証

1) 実証内容

先述したニーズ調査の結果等を踏まえ、北海道済生会福祉センター就労継続支援事業所「ぷりもぼっそ」が「Primo Cook Room」（ウイングベイ小樽5番街1階）で実施しているクッキー、サブレ、焼き菓子づくりの補助業務を対象に隙間時間で仕事をしたいと考える方とのお仕事マッチングを行った。

具体的な内容は以下に示す通りである。

【仕事内容】材料の計量、形成、型抜き、封詰め、シール貼りなど

【実施時期】1月19日(月)、21日(水)、22日(木)、23日(金)、
26日(月)、28日(水)、29日(木)、30日(金)

【時間】いずれも10:30～15:00まで30分単位で募集

【場所】ウイングベイ小樽5番街1階「Primo Cook Room」

【時給】1,075円（30分の場合538円。当日現金支給）

【交通費】1日あたり500円支給

【持ち物】エプロン

【募集方法】公式LINE ウェルネス知恵袋にて募集

Well be ワーキング

子育て期のママやちょっとだけ働きたい人と
隙間時間でできるお仕事をマッチング

今回のマッチングは北海道済生会が公益財団法人JKAの補助事業の一環で実施するもので、試験的な取り組みとなります。



未経験OK

専任スタッフが常駐！
初めての方でも簡単に
できる作業です

短時間OK

最短30分から
お仕事可能！

交通費支給

1日につき
500円支給



クッキー・サブレ・焼き菓子づくりのお手伝い

仕事内容	材料の計量、形成、型抜き、封詰め、シール貼りなど
日にち	1月19日(月)、21日(水)、22日(木)、23日(金) 26日(月)、28日(水)、29日(木)、30日(金)
時間	いずれも10:30~15:00まで30分単位で募集
場所	ウイングベイ小樽5番街1階「Primo Cook Room」(きっずてらす横) ※ご予約いただいた日程の5分前までにお越しください
時給	1,075円(30分の場合538円。当日現金支給)
交通費	1日あたり500円支給
持ち物	エプロン

！ ご注意

- ・食品を扱うお仕事ですので、体調不良の方はご遠慮ください。
 - ・キャンセルする場合は、必ず下記のいずれかの方法で手続きをお願いします。
 - ご予約した日程の1週間前まで：予約システムからキャンセルしてください
 - 予約システムのキャンセル期限を過ぎた場合：下記の連絡先までご連絡ください。
- 【連絡先】就労支援事業所ぷりもぱっそ
担当：松本由輝 TEL：080-2876-6581



事業実施主体：北海道済生会
事業実施サポート：(株)北海道二十一世紀総合研究所 お問合せ先 health@htri.co.jp



競輪の補助事業

このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>



Well be ワーキング



子育て期のママやちょっとだけ働きたい人と
隙間時間でできるお仕事をマッチング



今回のマッチングは北海道済生会が公益財団法人JKAの補助事業の一環で実施するもので、試験的な取り組みとなります。

参加者の皆さまには、お仕事終了後に簡単はアンケートなどへのご協力をお願いします。

※今回のマッチングにおいては、お仕事中的お子様の見守りには対応しておりませんので、予めご了承ください。

クッキー・サブレ・焼き菓子づくりのお手伝い

★お仕事マッチングへの参加方法（LINEアプリが必要です）

- ①事前に北海道済生会が運営する公式LINE「ウエルネス知恵袋」を友達登録
ご登録はこちらから⇒<https://wingbaby.net/>
- ②ご希望する日にちをクリック、またはQRコードを読み込んでお申込みください

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1月19日  https://qr.paps.jp/bv14	1月20日  	1月21日  https://qr.paps.jp/n3mAR	1月22日  https://qr.paps.jp/lcGcF	1月23日  https://qr.paps.jp/e9bzm
1月26日  https://qr.paps.jp/6UNS	1月27日  	1月28日  https://qr.paps.jp/Wlqz	1月29日  https://qr.paps.jp/DKGKf	1月30日  https://qr.paps.jp/RhMPx

ご注意

・キャンセルする場合は、必ず下記のいずれかの方法で手続きをお願いします。

- ご予約した日程の1週間前まで：予約システムからキャンセルしてください
- 予約システムのキャンセル期限を過ぎた場合：下記の連絡先までご連絡ください。

【連絡先】就労支援事業所ぷりもぼっそ 担当：松本由輝 TEL：080-2876-6581

事業実施主体：北海道済生会／事業実施サポート：(株)北海道二十一世紀総合研究所 お問い合わせ先 health@htri.co.jp



競輪の補助事業

このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

2) 実証結果

① マッチング件数

お仕事マッチング実証への参加者を募集したところ3名が参加し、延べ9枠、合計17.5時間の就労が行われた。参加者はいずれも女性で、40代1名、50代2名であった。参加状況をみると、複数日にわたり継続して参加した者もあり、1日当たりの就労時間は1時間から2時間30分程度であった。実証期間中には参加者がいない日も一部あったものの、30分単位で応募可能としたことにより、参加者それぞれの都合に応じた柔軟な就労機会を提供することができた。

参加日	参加者	年齢	性別	仕事時間	時間数(h)
2026/1/19(月)	Aさん	45	女	10:30~13:00	2.5
2026/1/21(水)	Aさん	45	女	10:30~12:00	1.5
2026/1/22(木)	Bさん	55	女	10:30~13:00	2.5
	Cさん	50	女	14:00~15:00	1.0
2026/1/23(金)	参加者ナシ	—	—	—	—
2026/1/26(月)	Cさん	50	女	14:00~15:00	1.0
2026/1/28(水)	Aさん	45	女	10:30~13:00	2.5
2026/1/29(木)	Bさん	55	女	10:30~13:00	2.5
2026/1/30(金)	Aさん	45	女	10:30~13:00	2.5
	Cさん	50	女	13:30~15:00	1.5

② 参加者側の評価

参加者の実証参加後のアンケート結果をみると、参加理由としては、「子育てや家事の合間に参加できそうであったこと」「未経験でもできる仕事だと思ったこと」「行きやすい場所であったこと」が共通して挙げられており、短時間・身近な場所・未経験でも参加しやすい業務内容であることが、参加の後押しになっていたことがうかがえる。また、30分単位で仕事時間を選択できる仕組みについては、3名中2名が「とても参加しやすい」と評価しており、柔軟な時間設定は参加しやすさの向上に寄与したと考えられる。

仕事内容については、全員が「わかりやすい作業内容だった」と回答しており、加えて「未経験でも問題なくできた」「簡単で参加しやすい内容だった」「時間に対して問題ない作業量だった」といった評価も多く見られた。このことから、今回設定したクッキー、サブレ、焼き菓子づくりの補助業務は、短時間就労の試行対象として適

切な内容であったと考えられる。一方で、不安に感じたこととしては、全員が「初めての場所・環境に不安があった」と回答しており、2名は「作業についていけるか不安だった」としていることから、参加前の情報提供や当日の受入れ時の説明、フォロー体制の充実が今後の課題として挙げられる。

今後の参加意向については、2名が「ぜひ参加したい」、1名が「条件が合えば参加したい」と回答しており、実証参加者の評価は概ね良好であった。自由記述においても、「安心して参加できた」「楽しく仕事ができ」「働けたという達成感があった」といった前向きな感想が寄せられている。一方で、申込フォームの操作がわかりにくいとの意見や、参加条件として仕事内容や時間帯が重要であるとの指摘も見られた。

③ 業務依頼側の評価

お仕事マッチング実証に関して業務依頼側へヒアリングを行ったところ、実際の運用を通じて、募集条件や予約管理、支払い方法、事務手続き等に関する課題が明らかとなった。

募集時間単位については、依頼側としては30分単位では業務説明のみで終了する可能性があり、実際に作業を進めるためには最低でも1時間程度は必要であるとの意見が示された。このため、今後は30分単位にこだわらず、1時間又は1時間半程度を基本とした募集設定も検討する必要がある。

予約システムについては、依頼側が予約状況をリアルタイムで把握できず、変更が生じた際の対応が難しかったことが指摘された。予約受付〆切は1週間前程度が準備しやすいとの意見があり、依頼側の業務実態に即した予約・調整の仕組みが求められる。

支払い方法については、当日に現金で手渡す方式では、端数の現金準備など依頼側の負担が大きく、より簡便な方法が望ましいとの意見があった。具体的には、PayPayのようなキャッシュレス決済等、現金以外での支払いの仕組みの必要性が示された。また、労働条件通知書兼雇用契約書の作成や署名確認などの事務手続きについても負担感が大きく、こうした手続きをいかに簡略化するかが継続のポイントになる可能性がある。

参加者の就労実績については、短時間でも期待以上の戦力となったとの評価が得られた。特に、同じ参加者が複数回参加した場合には、指示が少なくても作業が進み、依頼側の負担軽減につながったことが確認された。その反面、毎回異なる参加者が単発で入る場合には、説明や指示の手間が増える可能性も示された。

今後の事業展開に関しては、現状では常時仕事が発生するわけではなく、継続的なマッチングを前提とするよりも、人手が不足するタイミングでスポット的に依頼する仕組みの方が現実的であるとの見解が示された。また、タイミーのような専門

的なマッチングサービスと同等の仕組みを構築することは困難である一方、ウイングベイ小樽内のテナント等との関係性を活かした独自の仕組みづくりの可能性が示唆された。具体的には、各店舗の求人情報を掲示するアナログな「マッチングボード」を設置し、支払いはデジタルで行うといった運用案も挙げられた。また、単一企業のみで継続的な仕事を生み出すことには限界があるため、今後はウイングベイ小樽内の複数テナント、特に飲食店等とも連携しながら、業務を持ち寄る形で仕事を創出していくことが重要である。あわせて、こうした取組をウイングベイ小樽全体へ広げていくためには、参加者・依頼側双方にとっての安心感をどのように確保するか、また複数企業が関与する場合に予約管理や募集権限を誰が担うのかといった運営体制上の整理が必要となる。

3) 今後の方向性

今回の実証結果を踏まえると、お仕事マッチングは、子育てや家事の合間に短時間で働きたい人と、一定の業務を柔軟に担ってほしい事業者とをつなぐ仕組みとして、一定の可能性が確認された。参加者からは、身近な場所で、未経験でも取り組みやすい仕事内容であったことが参加の後押しになったことがうかがえ、今後の参加意向も概ね高かった。一方で、継続的な実施に向けては、参加者の「参加しやすさ」と業務依頼側の「受け入れやすさ」の両面を踏まえた仕組みづくりが重要である。

今後は、ウイングベイ小樽の強みを活かした地域密着型の運営モデルとして構築していくことが重要であり、単一事業者のみで完結させるのではなく、複数テナントが関わる形で仕事をもち寄り、参加機会の幅を広げていくこと、単発的・短時間の就労ニーズに対応するスポット型の仕組みを基本としながらも、今回の実証内容等をウイングベイ小樽内のテナントへ共有し、関心のある事業者がいた場合には必要に応じて継続的な就労機会への展開についても検討することによって、子育て期のママ等の就労機会の創出と、地域企業の人手不足対応を両立する仕組みとして発展させていくことが望まれる。

2 企業や自治体等との連携体制構築に向けた支援

本業務では、子育て期の就労等サポート機能強化として短時間就労の実証を行った。これを踏まえ、企業や自治体等との連携体制構築に向けては、実証で得られた結果や示唆を、関係者にわかりやすく共有できる形に整理することが重要である。

そこで、託児付きワーキングスペースの継続利用や安定的な仕事供給の実現に向けた対話の土台として、テナント企業・店舗向けの説明資料を作成した。

本資料は、実証を通じて確認した「近場で短時間の仕事に対するニーズ」「商業施設内の業務とすきま時間就労との適合性」「短時間就労が現場の力になりうる可能性」「無理なく継続できる運営の条件」を整理し、関係者に共有することを目的としている。単に実証結果を報告するのではなく、テナント企業等にとっての導入意義や、実際に運用する際に生じる負担・工夫のポイントまで含めて示すことで、利用意向や業務発注意向、参画にあたっての課題を具体的に意見交換しやすくすることを意図した。

今後は、本資料を活用しながら、ウイングベイ小樽内のテナント企業・店舗や関係機関に対して説明・ヒアリングを行い、どのような業務であれば切り出しやすいか、どの程度の時間設定であれば受け入れやすいか、募集・受付等をどのように簡素化すれば継続しやすいかといった論点を整理していくことを想定している。

テナント企業・店舗向け

ウイングベイ小樽で育てる 短時間お仕事マッチングの仕組み

実証結果の共有と、無理なく続く仕組みづくりに向けたご相談

対象：ウイングベイ小樽 テナント企業・****さま

日付：2026/**/**

※本資料は北海道庁生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

この実証で確認したかったこと

① 「働きたい人のニーズ」と「現場で成り立つ可能性」を確かめる

近場で短時間の仕事にどの程度のニーズがあるか

平日中のすきま時間で働きたい層がどれくらい存在するかを確認。

商業施設内の仕事とすきま時間就労がマッチするのか

テナントの軽作業ニーズと短時間就労ニーズの適合性を確認。

短時間でも、現場の力になりうるか

30分～数時間の就労でも、業務が前に進むのか・負担が軽くなるかを確認。

今後、無理なく続けられる仕組みに育てられるか

募集・受付・支払い等の運用が、負担過多にならない形を検討。

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

実証内容

① 本当に未経験でも対応可能な補助業務の短時間就労は成り立つかを検証

対象業務

Primo Cook Roomでのクッキー・サブレ・焼き菓子づくりの補助業務

北海道済生会福祉センター就労継続支援事業所「ぶりもばっそ」で切り出せる仕事を抽出

仕事内容

材料の計量、成形、型抜き、封詰め、シール貼りなど

未経験でも取り組みやすい補助業務

実施概要

焼き菓子づくり補助 × 30分単位募集

Primo Cook Roomにて、計量～封詰め・シール貼りまでの補助業務を短時間枠で募集

実施日・時間

実施日：
1/19、21、22、23、26、28、29、30
時間：
10:30～15:00の間で30分単位で募集

すきま時間（短時間）で枠設計

条件・募集

時給：1,075円
交通費：1日500円支給
募集方法：済生会公式LINE「ウエルネス知恵袋」で周知・受付

周知～受付を公式LINEで実施

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

実証結果① マッチングの実績

- 小規模だが実際にマッチングが成立し需要の存在も確認



ニーズ（アンケート）

平日中のすきま時間就労に
10名全員が前向き

需要の存在を確認

マッチング実績（実証）

3名

参加者

9枠

延べ就労枠

17.5時間

合計就労時間

1回あたり1~2.5時間程度の柔軟な勤務が実現

実際に就労が成立

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

実証結果② 参加者の評価／業務依頼側の評価

参加者の評価

- 「近場・短時間・わかりやすい仕事」であれば、参加しやすい条件になる



参加しやすかった点

家事・育児の合間に参加しやすい
未経験でもできそう
行きやすい場所

参加の後押しになった条件



不安・配慮点

初めての場所・環境への不安
作業についていけるかの不安

事前案内・現場フォローが鍵

業務依頼側の評価

- 短時間就労は十分可能性があるが、現場に合う時間設定や運用の工夫が重要



良かった点

短時間でも、期待以上の戦力になった
継続参加で、指示の負担が軽くなった
補助業務の一部を任せられる可能性が見えた

短時間でも現場の助けになりうる



運用上の声

30分単位では短すぎる場面もあった
最低1時間程度あると運用しやすいという声があった

時間設定の工夫がポイント

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

テナントにとっての意味

店舗運営の観点 (可能性)	地域とのつながりの観点 (可能性)
<p>補助業務・繁忙時対応の「選択肢」を増やせるか</p> <p>必要ときに、必要な分だけ補える可能性 短時間でも、現場の力になりうる事が確認できた</p> <p>補助業務や繁忙時対応の選択肢になりうる 「人を増やす」以外の手段として検討できそう</p> <p>継続参加で、受け入れやすさが高まる可能性 同じ参加者の継続参加により、指示の負担が軽くなったという声あり</p>	<p>人手確保と、地域とのつながりづくりを両立できるか</p> <p>人手確保と、地域とのつながりづくりを再立 「近場で短時間から働きたい」ニーズを、施設内で受け止める場になりえる</p> <p>施設全体の価値向上につながる可能性 働き手=来館者として、接点が増えることで回遊やリピートのきっかけにも</p> <p>「育てる」前提の取組として 今後、無理なく続く形を一掃に整えていきたい</p>

この取組は、人手確保の選択肢を広げながら、施設全体の価値向上にもつながる可能性があるのでは？

※本資料は北海道生食会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

今後に向けて：仕事情報の集約方法は、シンプルさが大切

- 最初から完成形を目指すのではなく、まずは無理なく回る情報の出し方を考える

実証で分かったこと (運営側)	考え方 (続けやすさ優先)
<p>今回はLINEで案内・申込受付を実施 募集情報の周知～受付の導線は作れた</p>	<p>まずは「出し方・受け方」をシンプルに 高機能さより、続けやすさを優先したい</p>
<p>1事業者分でも、枠の設定・管理に手間 募集枠の作成、変更連絡、状況把握など</p>	<p>情報の型をそろえる (テンプレ化) 「日時・時間・場所・内容・持ち物」だけでも統一</p>
<p>事業者が増えると、運営負担はさらに増加 枠管理・連絡・調整が積み上がる</p>	<p>専任がいなくても回る「省力設計」を 負担が偏らない仕組み (分担・見える化) を検討</p>
<p>紙の掲示板など、アナログも選択肢 誰でも見られる／更新しやすい形も検討余地</p>	<p>続けやすさは、みんなで作れる 「これなら回りそう」を持ち寄って、負担の少ない形へ</p>

※本資料は北海道生食会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

今後に向けて：支払い・書類対応は、事業者の負担を軽くする工夫が必要

✓ 実際に依頼しやすい仕組みにするために現場の事務負担をできるだけ小さくする工夫が必要

実証で分かったこと（依頼事業者側）	考え方（負担を小さくする工夫）
<p>📄 今回は当日現金で支払う形で実施 現場で完結できる一方、準備が必要</p>	<p>📄 支払い方法は「準備が少ない形」を検討 現場の手間が増えない選択肢を検討</p>
<p>📄 端数を含めた現金準備が負担になった 釣銭・小銭の確保など</p>	<p>📄 「端数が出ない設計」も含めて工夫 精算の手間が最小になるルールを検討</p>
<p>📄 証拠整理や社内手続きにも手間がかかった 短時間でも処理は発生する</p>	<p>📄 「記録の残し方」の検討 必要最低限の書式・手順で迷いを減らす</p>
<p>📄 書類準備や署名対応が必要だった 短時間でも手続きは省けない場面がある</p>	<p>📄 各事業者が無理なく対応できる形へ 続けやすくするには、支払い・書類の簡素化が重要</p>

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

無理なく続く仕組みを一緒に育てませんか？

共創パートナーとして、ご意見・試行への協力をお願いできませんか
「できる範囲で」「小さく試す」からでOK。続けられる形を一緒に考えたい。

ご相談したいこと（事実+今後の方向）
※実証で「需要」と「可能性」を確認。運用はこれから整えていく段階。

- | | |
|--|--|
| <p>✓ 需要と可能性は確認できた
実証結果を踏まえた出発点</p> | <p>✗ 運用面はこれから整備
無理なく回る仕組みづくり</p> |
| <p>📄 完成品ではなく「共創」
一緒に育てていく仕組み</p> | <p>📄 小さな試行からでも歓迎
意見交換だけでもありがたい</p> |
| <p>📄 できる範囲で関わりを
無理のない形を一緒に</p> | <p>📄 対話しながら整えたい
「一緒に考える」前提で</p> |

📄 まずはお話を聞かせてください。
ウイングベイ小樽らしい、無理なく続く仕組みを一緒に考えていければと思っています。

まずはここから
意見交換 30分
困りごと・業務候補を一緒に整理

📄 “できる範囲”の協力でOK
小さな試行協力からでも歓迎です

📄 お問い合わせ

連絡先：{電話番号/メール}

※本資料は北海道済生会「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労等サポート機能強化に係る実証研究支援業務」報告書に基づく整理です

IV 若者のアイデアを企業等との共創により具現化する仕組みの実証・検証支援

1 ケーススタディ

本業務では、次年度以降に若者のアイデアを企業等との共創により具現化するピッチイベントを企画するための検討材料を得る観点から、「Otaru 未来共創ドラフト会議」をケーススタディとして分析した。

1) 事例の概要

本事例は、令和7年9月6日にウイングベイ小樽で開催され、若者による発表、講評、ドラフト指名、記念撮影、懇親会までを含む一連のプログラムとして構成されている。

発表者は8名であり、1名当たりの持ち時間は10分、内訳は発表7分、コメント3分とされ、全発表終了後には、観客席側で発表を聞いた6つの監督チーム(計38名)がそれぞれ上位3名を選定し、最も多く1位指名を得た発表者を総合1位とする仕組みが採用されている。

発表テーマは、社会福祉、医療現場の支援、自然環境の保全、スポーツを通じた地域づくり、教育のアップデート、観光と地域理解、支援を価値へ転換するブランドづくりなど、多様な内容で構成されており、発表者についても、地域内の高校生・大学生だけでなく、地域外の高校生や企業関係者等が含まれており、若者の多様な問題意識や実践意欲を受け止める設計となっている。

本事例の特徴として、若者のアイデアを評価する主体が単一の審査員団ではなく、6チームに分かれた「監督チーム」として編成されていた点が挙げられる。監督は、行政、医療・福祉関係者、教育関係者、民間企業、中間支援組織等からの参加者であり、若者の提案を評価する場であると同時に、具現化に関わり得る多分野の関係者をあらかじめ会場内に配置したイベントであったと整理できる。

2) 本事例にみる有効な仕組み

本事例では、評価主体として行政、医療・福祉、民間企業、教育機関、中間支援団体等の多様な関係者が参画していたこと、それらの関係者がチーム単位で発表を聞き、議論したうえで指名を行う構造となっていたことが特徴的であり、若者のアイデアを企業等との共創により具現化していくうえで、有効な仕組みの一つと考えられる。

一般的なピッチイベントでは、審査員が少人数の専門家に限られることも多いが、本事例では、複数分野の関係者がチーム単位で発表を聞き、議論したうえで指名を行う仕組みとなっていた。このことにより、若者の提案を公共性、事業性などの異なる観点から見立てることが可能となっていたと思われる。

また、監督チームが混成型で構成されていた点も重要である。例えば、行政のみ、企業のみといった単独分野の評価体制ではなく、地域課題を知る行政・福祉関係者と、実装可能性を考える企業関係者、若者への支援や学びの観点を持つ教育関係者等が同じチームに入ること、一つの提案に対して多面的な議論が行いやすい構造となっていた。これは、若者のアイデアを単なる「面白い発想」として消費するのではなく、地域や企業との接点の中でどう育てられるかを考える土台として有効である。

さらに、発表後に各チームが上位3名を選定するドラフト方式は、発表を聞いて終わるのではなく、「どの提案に関わりたいか」「どの提案なら次につなげられるか」を支援側に考えさせる仕掛けとして機能している。この方式は、若者にとっても、自身のアイデアが第三者からどのように受け止められるかを知る機会となる。さらに、講評や懇親会まで含めた構成であったことから、発表後に関係者同士が接点を持ちやすい導線も一定程度確保されていたといえる。

このように、本事例は、若者のアイデアを発表させるだけではなく、それを受け止める地域側・企業側の関与を引き出す設計がなされていた点で、次年度以降のピッチイベントを考えるうえで有効な示唆を持つものと考えられる。

3) 本事例を踏まえた今後の検討事項

本事例を次年度以降のピッチイベントの企画検討に活かすためには、その有効性を踏まえつつ、今後の運営に向けて整理しておくべき事項についても検討する必要がある。

特に、選定基準の共有、イベント後の伴走体制の設計、監督チームに期待される役割の整理などの点については、若者のアイデアを実際の実組へと結び付けていくうえで、今後さらに具体化を図ることが望まれる。

【ドラフト方式について】

若者のアイデアに対する関心を可視化し、支援側の参画意欲を引き出す仕組みとして有効である。次年度以降、具現化をより意識した運営とする場合は、選定の観点をあらかじめ整理しておくことが有効と考えられる。例えば、社会課題の解決への寄与、事業化可能性、企業との協働可能性、商業施設での実証適性、継続可能性といった観点を明示することで、発表の印象や共感性に加え、実装段階を見据えた評価が行いやすくなると考えられる。

【監督チームについて】

監督チームには行政、医療・福祉、民間企業、教育機関、中間支援団体等の多様な関係者が参画しており、それぞれのチームが異なる知見やネットワークを有している

る点は、本事例の大きな特徴である。次年度以降、イベント後の展開までを見据える場合には、こうした多様性を活かしつつ、各チーム又は各関係者がどのような役割を担うのか、また、選定や伴走にあたって共有すべき観点をどのように整理するかを、あらかじめ明確にしておくことが望ましいと考える。例えば、伴走支援、事業計画化支援、実証先との調整などの役割分担に加え、評価にあたって重視する観点を一定程度共有することで、チームごとの特色を活かしながらも、イベント全体として方向性のそろった支援体制を構築しやすくなると考えられる。

【当日のプログラムについて】

当日のプログラムは、発表、講評、指名までの流れが設計されており、若者のアイデアを広く共有する場として機能している。次年度以降、提案の具体化や実証への接続をより重視する場合には、発表者と監督チーム、あるいは支援候補者がその場で対話し、提案内容をさらに深める機会を設けることも検討する必要があると考える。例えば、指名後の意見交換や簡易なブラッシュアップの時間を組み込むことで、発表の場を次の実践段階へとつなげやすくなると考えられる。

【小樽、北海道の課題解決に特化したアイデア創出について】

今回の取組は、北海道済生会だけではなく全国の済生会のネットワーク等を活用し、アイデアを提案する若者を全国から確保した。その結果、全国の様々な地域課題に対応した提案が得られるメリットが大きいが、監督チームの多くに小樽や北海道の事業者や行政職員等が参画していることもあり、「小樽」あるいは「北海道」の課題解決にアイデアに絞ることにより、より具体的な意見交換やプロジェクト化、事業化につながる可能性があると考えられる。

2 今後の方向性

本事例は、次年度以降に若者のアイデアを企業等との共創により具現化するピッチイベントを企画検討するうえで、若者のアイデアを発掘し、関心を持つ支援主体を可視化する仕組みの参考となった。

今後は、そこに選定観点の共有、役割分担の明確化、対話と伴走の仕組みを加えることで、若者のアイデアを企業等との共創により具体的な取組へとつなげる、より実効性の高いイベントへと発展させていくことが期待される。

V 事業成果の周知支援

1 ウエルネス会議の開催支援

本事業においては、facebook の Messenger 上にモルック、デジタル系ものづくりのグループを作り、各実証の内容に関する検討や情報交換を行った。

また、事業の進捗状況の共有やイベントの企画等に関しては適宜オンラインミーティングを開催し、本事業が円滑に進むように努めた。

2 成果報告

本報告書をもって本事業の成果について報告した。